

稲・大豆作情報 (NO. 1)

1. 水稲作況情報田の生育概況 (7月4日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況			概況
			草 丈 c m	茎 数 本/㎡	主稈 出葉数	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/17 17.7株/㎡	本 年	36.0	112	6.8	6月下旬は、平年より高温・多雨・低日照で経過している。草丈は、「夢しずく」「さがびより」で平年より高い。茎数は、「夢しずく」では平年より多く、「さがびより」では、平年より少ない。主稈出葉数は、平年より進んでいる。
		平 年	30.2	98	5.8	
		平年比	(119)	(114)	(1.0)	
さがびより 小城市芦刈町	6/20 18.6株/㎡	本 年	33.2	78	6.3	
		平 年	27.2	84	5.8	
		平年比	(122)	(93)	(0.5)	
ヒヨクモチ 小城市牛津町	7/2 株/㎡	本 年	-	-	-	
		平 年	16.5	75	4.4	
		平年比	(--)	(--)	(--)	

注1) 各品種 前作: 麦

注2) 施肥及び病虫害防除は地区基準に準ずる

注3) 平年値は、過去10年間(H25~R4)の平均値(さがびよりについては、R1年を除くH24年~R4年の平均値)

◆農業試験研究センター米づくり情報1号 7月3日(抜粋)

本年産水稲の生育状況(7月3日)

移植日	項目 品種	年 次	草 丈 cm	茎 数 本/㎡	葉 齢 L	概況 (平年との比較)
6月19日	夢しずく	本 年	32.7	94	5.7	[気象] 6月1日~30日まで ◆平均気温...平年より0.8℃高い ◆日照時間...やや短い(平年比95%) ◆降水量...多い(平年比115%) [生育] ◆草丈 「夢しずく」「ヒノヒカリ」「さがびより」で高い。「ヒヨクモチ」で平年並み。 ◆茎数 「ヒノヒカリ」「さがびより」「ヒヨクモチ」で少ない。「夢しずく」で平年並み。 ◆葉齢 「夢しずく」では平年並み、「ヒノヒカリ」で遅れており、「さがびより」でやや遅れており、「ヒヨクモチ」で進んでいる。
		平 年	30.7	94	5.7	
		平年比(差)	107	100	(±0)	
	ヒノヒカリ	本 年	26.1	102	5.2	
平 年		24.4	137	5.9		
平年比(差)		107	74	(-0.7)		
6月20日	さがびより	本 年	28.7	73	5.4	
		平 年	25.3	92	5.7	
		平年比(差)	113	79	(-0.3)	
	ヒヨクモチ	本 年	25.3	112	6.5	
平 年		25.6	126	5.8		
平年比(差)		99	89	(+0.7)		
留意点	○ 除草剤の処理後、1週間の止水管理を行った後は、速やかに浅水管理に移行し、茎数確保と根の健全化に努める。 ○ 降雨により深水にならないよう、適正な水深を保つように努める。					

注1) 「夢しずく」、「ヒノヒカリ」は、6月19日移植の稚苗(播種期5/25、播種量 湿籾180g/箱)

「さがびより」、「ヒヨクモチ」は、6月20日移植の稚苗(播種期5/26 播種量 湿籾180g/箱)

2) 栽植密度: 「夢しずく」は、条間30cm×株間17cm, 19.6株/㎡(65株/坪)

「さがびより」は、条間30cm×株間20cm, 16.7株/㎡(55株/坪)

「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」は、条間30cm×株間15cm, 22.2株/㎡(73株/坪)

3) 栽培管理: 施肥法は県基準に準じ、防除他はセンターの慣行による。

4) 概況欄の【草丈】、【茎数】の平年値との比較については、以下のように定義している。

低い(少ない): 94以下、やや低い(やや少ない): 95~98、平年並み: 99~101、

やや高い(やや多い): 102~105、高い(多い): 106以上。

5) 平年値は、収量について過去の全試験年次の標準偏差(σ)を算出し、±1σの外側にある年次を除く年次を対象にした、各項目の単純平均値。

2. 水稲管理

**大雨や寡照条件が続いており、水稲が軟弱徒長傾向で推移している。
落水・浅水管理を徹底し、初期分けつの確保、スクミリングガイの食害やガス害回避を図る。**

○水管理 ～ 時期に応じた水管理の徹底 ～

- ・深水管理は、分けつの発生抑制、ガス抜き不良、スクミリングガイ食害等の水稲の生育に悪影響を及ぼすため、除草剤施用後、湛水期間を終えた圃場は、速やかに間断かん水に移行し、土壤に酸素を供給し、稲体の健全化を図る。
- ・今年6月下旬より降雨が続いており、水尻のせきの高さを調整し、深水にならないよう分けつ促進を第一に管理する。
- ・今後も高温が続くことが予想されるため、ガス湧きが確認されている圃場は、1～2日落水→数日浅水管理→1～2日落水を繰り返し、土壤の急激な還元化を抑制する。
特に水面に油膜が見られる場合は早急に落水する。
- ・スクミリングガイの被害が見られる圃場では、貝の活動抑制を図ることが出来る浅水管理にすると共に必要に応じスクミノン、スクミンベイト3などで薬剤防除を実施する。
- ・余り苗は、いもち病やウンカの温床になるため、直ちに処分する。



○雑草防除

- ・除草剤散布ができなかった、もしくは遅れた圃場や処理後に田面が露出した圃場などでは、ヒエや広葉雑草が繁茂し、薬剤による雑草防除が困難となるため、中後期除草剤との体系処理を検討する。

対象	除草剤名	使用時期	備考
ヒエ類	クリンチャー I 粒剤	移植後 7 日～ β E 4L 但し、収穫 30 日前まで	湛水散布 (3～4 日は湛水)
	クリンチャー EW	移植後 20 日～ β E 6L 但し、収穫 30 日前まで	落水散布。展着剤加用。
	ヒエクリーン I 粒剤	移植後 15 日～ β E 4L 但し、収穫 45 日前まで	湛水散布 (3～4 日は湛水)
広葉雑草	バサグラン粒剤	移植後 15 日～55 日 但し収穫 60 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。 最低 3 日間入落水しない。
	バサグラン液剤	移植後 15 日～55 日 但し収穫 50 日前まで	高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。
ヒエ類および広葉雑草	クリンチャーバス ME 液剤	移植後 15 日～ β E 5L 但し 収穫 50 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。 最低 3 日間入落水しない。 高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。(展着剤無加用)
	ハイカット I 粒剤	移植後 15 日～ β E 3.5L 但し、収穫 60 日前まで	湛水散布 (3～4 日は湛水)
	フォローアップ I 粒剤	移植後 15 日～ β E 5L (稲 4 葉期以降) 但し、収穫 60 日前まで	湛水散布 (3～5 日は湛水)
	ワイドアタック SC	移植後 20 日～ β E 6L (稲 5 葉期以降) 但し、収穫 30 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。(展着剤無加用)

○病害虫情報（発生および防除）

- ・トビイロウンカは、現在のところ飛来が確認されていない。
- ・セジロウンカとコブノメイガは6/21～24頃に飛来が確認されている。飛来量は別表のとおり。
- ・今後、飛来があった場合は、それぞれの地区・品種別に発生状況を確認し、防除時期の判断・適期防除に努める。

海外飛来性害虫情報（2023年6月29日更新）

月	日	トビイロウンカ					セジロウンカ					コブノメイガ							
		佐賀県		長崎県			佐賀県		長崎県			佐賀県				長崎県			
		佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	佐賀市	神崎市	伊万里市	白石町	武雄市	諫早市	諫早市
ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB	ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB	フェロモン トラップA	フェロモン トラップB	粘着トラ ップ(20W蛍 光灯)	粘着トラ ップ(20W蛍 光灯)	粘着トラ ップ(20W蛍 光灯)	粘着トラ ップ(20W蛍 光灯)	フェロモン トラップA	フェロモン トラップB		
5月	22日	0		0	0	0		0	0	0	0						0	0	
	23日	0		0	0	0		0	0	0	0						0	0	
	24日	0		0	0	0		0	0	0	0						0	0	
	25日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	0	
	26日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	0	
	27日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	0	
	28日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	0	
	29日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	0	
	30日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	0	
	31日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	0	
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	0	
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	0	
	3日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	0	
	5日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	0	
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	0	
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	0	
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	0	
	10日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0		0	0	0	0	0	0	
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	0	
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	0	
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	0	
	15日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	0	
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	1	0	0	0	
	17日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0						0	0	
	18日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	0	
	19日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	0	
	20日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	1	0	0	
	21日	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0						0	0	
	22日	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0						2	0	
	23日	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0		0	0	0	2	0	0	
	24日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0		0	0	0	2	1	0	
	25日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	4	
	26日		0	0	0		0		0	0	0						1	0	
	27日		0				0				0								
	28日																		
	29日																		
	30日																		

注1)ウンカ類:佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査。嬉野ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。
注2)コブノメイガ:神崎市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。
※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室提供。

- ・今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を農業技術防除センターのホームページで確認してください。

佐賀県 農業技術防除センター 

3. 大豆管理

排水対策を徹底し、耕起可能な状態になれば直ちに播種を行う。

本年は、梅雨入り(5月29日頃)が平年(6月4日頃)より6日程度早く、昨年(6月11日)より13日早かった。

多くの圃場では、今後播種期を迎えるが、局地的な大雨も想定されることから、天気予報や圃場条件に対応した播種技術や湿害対策が必要である。

また、近年の傾向から、梅雨明け後は、一転、高温・多日照条件となり、土壌の乾燥が進み、発芽不良または遅延することが考えられることから、干ばつ対策も頭に入れておく必要がある。

○圃場準備 ～ 耕起は水分の低い時に。大雨・長雨予報の時は無理しない～

- ・大豆は、石灰の吸収量が多く、根粒菌の活動促進のため、石灰を必ず施用する(pH6～6.5)。
- ・播種後2日間の大雨や浸水で、発芽率が著しく低下(酸素不足による窒息)するため、播種後2～3日以内に冠水するような大雨が予想される場合は無理して播種しない。
- ・雨が多く耕起できない時でも早めに播種でき、生育期間の干ばつ時にも水分保持が可能な播種技術(麦畦を利用した部分浅耕播種や不耕起播種)があるので、導入を検討する。
- ・荒起こしは、圃場が乾くのを待ち、播種前日～当日に行う。
(耕起してから降雨にあった場合は土壌水分が低下しにくく、晴天が続く場合は乾燥しやすい)
- ・播種は、圃場の排水が良ければ平畦で播種し、覆土と培土で高い畦に仕上げるのが通例である。しかし、近年頻発する大雨による被害を軽減するためには、畦立てによる播種が理想である。この場合は、培土に使う土を残すため、荒起こしを深めに行い、播種時は浅めに起こしながら1畦2条播きとし、条間を中耕培土できるようにしておく。
- ・成形ロータリもしくは、麦用の「畦盛り板」をロータリに装着して畦立て播種すれば、表面排水も良くなるため、湛水による出芽不良を軽減することができる。
- ・耕うんと播種を2台のトラクターで並行して組作業を行えば、晴れ間の作業が可能となるとともに土壌水分を確保しつつ播種が可能になる。

○播種

- ・種子消毒：多湿条件で播種した大豆は、発芽の遅れや、土中で種子が腐り発芽苗立ちが劣りやすい。そのため、土中での種子の腐敗リスクを軽減するために、種子消毒(クルザーMAXX、キヒゲンR2フロアブル)等を徹底し、発芽率向上に努める。
- ・播種量：大豆の播種適期は7月上中旬であるが、それ以降の播種は生育量の確保が難しくなるため、栽植密度等を調整する必要がある。

播種時期 (月/日)	栽植本数 (㎡当り)	栽植様式(例) (条数)条間×株間×1株本数	播種量 (/10a)	窒素施肥量 (/10a)
7/1~7/15	10本 13本	(2条)75cm×20cm×2本 (2条)75cm×25cm×2本	3~4kg	—
7/16~7/25	18本 20本	(2条)75cm×15cm×2本 (3条)50cm×20cm×2本	5~6kg	—
7/26~7/31	24本 27本	(2条)75cm×11cm×2本 (3条)50cm×15cm×2本	7~8kg	4~6kg

・播種深度：

播種後2~3日以内に降雨が予想される場合→2cm程度の浅めに播種、鎮圧はしない。

播種後に晴天が続く場合や、土壌が乾燥気味の場合→4~5cm前後の深めに播種かつ鎮圧する。

- ・播種が終了している圃場では、圃場内の湛水を防ぐため、スムーズに排水できるよう圃場内や周辺に排水路を整備する。

○雑草防除

播種前)「ラウンドアップ」や「プリグロックス」など茎葉処理剤の散布において、風の強い日の散布は周辺水稻へ飛散する危険が大きいため必ず避ける。(場合によっては枯死まで至る)

播種直後) 土壌処理剤を散布し、雑草防除を行う。特に近年問題となっているホオズキ類の発生が多い圃場においては、「ラクサー乳剤」「フルミオ WDG」が効果的である。播種直後の散布でも隣接圃場の水稻へドリフト防止のため風速と風向きに注意し、風が強い日は散布しない。

※アサガオについては、多発すると大豆の作付け自体が困難になるため、見つけ次第手で抜き取る。

※すでにアサガオ類が多発している圃場では、トレファノサイド乳剤の全面土壌混和处理(播種前に200~300 ml/10a 散布→速やかに荒起→播種)で密度を減らすことができるため、土壌処理剤や大豆生育期除草剤、中耕・培土と組み合わせた防除を実施する。

令和5年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

佐城農業振興センター

